［特集］

これからの学校のこと。

長期学校改築計画検討会からの提言

小諸市内の小学校は、いずれも昭和40年代から50年代にかけて整備されていて、建物の多くは建築から40年以上が過ぎ、老朽化が進んでいます。このため、今後、建て替え需要の大幅な増加が見込まれています。

しかし、短期間のうちにすべての学校を建て替えることは難しいため、長期的な学校改築計画の策定が必要になっています。

これまで、市教育委員会では、ワークショップや懇談会などを開催してきました。この中での参加者の意見等から、「何らかの具体的なたたき台の提示が必要」という課題が明らかになってきました。そこで、計画のたたき台をつくるための検討組織として、「小諸市長期学校改築計画検討会」が設置されました。

検討会では、小中学校を取り巻く状況を踏まえ、「少子化に対応した小中学校のあり方」「小中学校の規模」「小中学校の配置及び校区」について検討を重ねてきました。その結果が、「提言書」としてまとめられ、本年1月17日に教育委員会に提出されました。

検討会で最優先としたことは、「小諸市で育つ子どもたちにとってより望ましい学校の姿はどうあるべきか」という視点です。

その小諸市で育つ子どもたちの状況として、少子高齢化に伴い、児童生徒数が減少を続けています。小学校の児童数は、昭和58年をピークに、中学校の生徒数も昭和61年をピークとして、平成29年には、それぞれ半数近くまで減少しています。そして、この減少は今後も続きます。

一方で、市の財政状況は、今後厳しさが増していくことが予想され、学校を含む全ての公共施設で、施設の有効活用や経費削減など、あり方の見直しが求められています。